

(様式1) 実践事例

学校名	伊達郡桑折町立醸芳中学校	校長名	神野 與		
住所	福島県伊達郡桑折町大字上郡字下柳5	児童生徒数	328	学級数	13
TEL	024-582-3162	ホームページアドレス	http://www.kori.gr.fks.ed.jp(桑折町教育ポータルサイト)		

きめ細かな支援の工夫 ～チームティーチング (T・T) 指導を通して～

1 少人数指導の計画等

(1) 実態把握の工夫

- ① 学級生活の観察や授業の省察から、有効な指導方法を明らかにする。
- ② 各種検査 (QU-テスト、学習実態調査) や学校独自の各種アンケート、学力テスト (全国学力、県学力テスト、校内定期テスト) による学力と生活習慣の実態の両面から問題点を明らかにする。

(2) 生徒の実態に応じた、学力向上を図る指導の工夫

- ① 特定の教科や教師による実践にならないよう、現職教育の一環として取り組む。
- ② 生徒指導の機能を生かした授業づくりを通したきめ細かな学習指導を行う。
  - ・ 基本的生活習慣の確立、集団生活への適応指導、家庭生活や家庭での学習習慣定着を図る。
  - ・ 全学年数学科・英語科でのチームティーチング、2年生理科のチームティーチングを実施する。

2 実践の概要 (チームティーチング (T・T) の実践)

(資料1)

(1) 数学科 (全学年) の取組<1年週2時間、2年週1時間、3年週2時間>

教師は、生徒のつまずきやすい内容を予想して授業に臨んでいる。さらに、T・Tの指導で机間指導の中で見付けた生徒個々のつまずきに即座に対応している。例としては、分数や小数の計算を苦手としている生徒は、一斉指導中に質問をすることに抵抗がある。しかし、T<sub>2</sub>の教師がいるので、気軽に質問をすることができる。また、基礎的な質問についてはT<sub>2</sub>が対応し、応用・発展的な内容についてはT<sub>1</sub>が中心となって個別に指導することで、生徒の力を伸ばすように配慮している。(右資料1)



基本的な内容が確実に定着していない生徒に関しては、放課後に声をかけ、追指導を行っている。さらに、学級担任が家庭学習で復習するように指示し、確認している。

(2) 英語科 (全学年) の取組<1～3年、週2時間>

(資料2)

今年度より、桑折町ではALTが2名いて、そのうち1名(日本人のALT)は、毎日本校に勤務するようになり、全学級の授業にT<sub>2</sub>として加わって英語指導に当たっている。T<sub>1</sub>となる英語科の教員は、各学年に一人おり、T<sub>2</sub>と授業の前に打合せをしている。数学科と同様にT<sub>2</sub>は机間指導により個別指導を行っている。例としては、対話文を扱う単元では、写真(右資料2)のように役割分担を行い、実際の会話が行われている状況を再現しながら授業を進めている。一人の教師が2役を演じるような授業に比べて、生徒にとって分かりやすい授業となっている。



また、英語弁論大会の指導においては、外国人ALTを含め5名の指導者で練習を見ることができ、生徒の関心、意欲を高め、技能の向上を図ることができた。

(3) 理科 (2年生) の取組<週2時間>

教頭がT<sub>2</sub>に入り、2年生全学級の理科のT・Tを実施している。資料作成や授業の進め方について意見を交換しながら取り組んでいる。計算問題を解く場面、化学式や化学反応式を答える場面での個への対応、実験・観察の場面(特に危険を回避したい学習内容)での実験班への対応を行っている。

授業後には、T<sub>2</sub>からT<sub>1</sub>へ授業の進め方、資料の使い方・内容、生徒の様子について情報を伝えることにより、生徒の実態に即した授業づくりに生かしている。

3 実践の成果と課題

- 複数の教師による指導で、個別指導が充実して生徒は学習内容が理解しやすくなり、学習意欲が向上し、授業に集中できる生徒が多くなった。
- 放課後の追指導(教科担任と学級担任の連携による)により、生徒は自主勉強をするようになった。また、保護者から担任に対し感謝の電話が入るなど、学校の指導を好意的に受け止める保護者が増えてきた。
- T・Tの指導では、T<sub>1</sub>とT<sub>2</sub>の打合せを毎時間ごとに綿密に行うことは困難であった。つまずきの内容により、どのような指導が効果的かを検討することで、更に効果が期待できると思われる。